

会報

かけはし

(題字 支部長 神山則幸)

令和6年11月1日

第 67 号

発行者 神山 則幸

酒造りの見学・体験



埼玉県内にある日本酒の酒蔵は三十を超すという。

五月初め、

馴染みの酒店さんに誘われ、その中の一つの蔵で酒造りを学んだ。

小さな酒蔵で、殆どの工程が自動化されてはいない。そこで一人の杜氏と三人の蔵人が連携し、手際よく動いている。その四人全員が二十代という蔵元の話に驚く。

身支度・消毒などを済ませ、杜氏より説明を受ける。高度な技術を要する下準備は終わっており、冷ますためのルートのに、蒸し上がった米をスコップで載せ、米の塊をほぐしながら熱をとる作業からスタート。冷めた米を布で包み中二階にある醗づくりのタンクに何回も運び入れ、權を使って底か

副支部長 小川 廣徳

ら上に動かし攪拌する。参加者で交代しながらであつても、この繰り返しはかなりきつい。その後、パイプを通ってきた醗を酒袋に入れ、一袋ずつ槽(ふね)と呼ばれる大きな箱の中に丁寧に敷き詰めていく。この日はここまで。

およそ一か月後、じっくり絞り出されたにごりと発泡のある酒を瓶に詰める作業に取り組み。「直

第二の人生を楽しもう

草加班 村上 修一

汲み純米大吟醸生原酒」と記載されているラベルを瓶に貼り、その瓶に手作業で無駄なく酒を入れ、最後は打栓して箱に納めた。

二十代の皆さんが、登録無形文化財である「伝統的な酒造り」を継承していること、私共に対する指導や補助をする際の言葉遣いの丁寧なことに感心し、頼もしくも思いながら二日間を終えた。

大小の瓶合わせて百十四本の限定酒が出来上がり、即出荷。

その日の夕方、帰りがけに酒店に寄り、貴重な体験をさせていだいたお礼かたがた、自分の手が加わっただろう一升瓶を買い求め、夕食時に早速飲み始めた。若い杜氏と蔵人たちの働きぶりを思い起こし、更なる成長に期待しながら。



退職してから十五年が過ぎようとしています。退職後も、子供に

関わる仕事をしたいと思い、ハロワーワークを通して、支援学級や特別支援学校に通学する子供たちを

ことができました。

デイサービスに勤め始めた頃、自分でも何か特技を身につけたいと思ひ、そば打ち教室に通い始めました。一年ほど教室に通ひ、そば打ちの難しさと、その技術の奥深さを感じました。そして、本格的に取り組もうと考へ、そば打ち道具一式を購入しました。

私は、生来不器用だったので、そばを〇・一ミリ単位に均一に薄く延ばしていく行程に苦労しました。それでも、なんとかそば打ちの全国団体である全麵協の段位認定試験に合格することができ、現在は四段位を目指して練習しています。

また、今年度からは、所属している蕎麦の会の会長を務めることとなり、月五回の練習会を始め、市の生涯学習課や公民館主催のそば打ち体験、公民館文化祭への出店、老人健保施設等へのボランティア出前そば打ちなど、様々な活動の企画運営を任せられ、充実した日々を送っています。

自らの、そば打ち技術の向上と日本の伝統文化である日本蕎麦の普及を第二の人生と決め、日々尽力していきたいと考えています。

会員短信

先生に憧れて・・・

川口班 菅原 京子

教員を目指す学生の指導を始めから六年。教員採用試験の低倍率が課題になっているが、「絶対に教員になる。」とがんばっている学生は多い。志望動機を問うと、ほとんどの学生が「小学校、中学校の時にとお世話になった先生に憧れて」と答えてくれる。自分が教えたわけではないが、大変うれしい気持ちになる。教職は大変なこともあるがやりがいのある仕事であることを伝えながら、限られた時間の中で、教員を目指す学生の後押しをしていこうと思う。

スポーツの振興

蕨・戸田班 奥富 孝浩

U15(女子中学生対象)バスケットボールクラブを立ち上げて六年度となる。二十八名(川口、蕨、越谷市、計十六校から参加)、週三回の練習、週末は遠征に行く。部活動の地域移行が叫ばれ、全力でやりたい子、やらせたい親の願いを叶える事を目指している。教員の負担軽減が叫ばれ、部活

動に意欲的に取り組むことが、あたかも、悪のような風潮がある。学校教育から社会体育に軸が移っても、教員が指導者となることが、まだまだ必要である。

学校支援指導員として

草加班 森田 郷子

市教育委員会の指導員として四年目を迎えた。今年度から教育支援室に勤務している。学校訪問をする「園長先生！」と笑顔で飛んで来る子供がいる。退職後三年間、幼稚園園長を務め最初に出会った子供たちは六年生になった。教育支援室には、学校に登校できず、自分の居場所を見つけようとする子供の姿がある。その中に卒園生もいる。保護者の悩みは思った以上に大きく深い。これからも子供、保護者に寄り添い、共に考え支えられる存在でありたい。

有言実行

川口班 中河 正明

縁があり、四月からも再任用校長として勤務しております。ポストコロナではありますが、教職員

の英知を結集して教育活動を豊かなものにしていききたいと思えます。また、私の教育信条は「有言実行」です。理を説き実践で示す「有言実行」型の学校経営がこれからの教育には必要不可欠であると考えます。そして、少しでも子供たちの笑顔が多く溢れる学校づくりに微力ながら取り組んでいく所存です。

次の一手

朝霞班 宮川 みさ子

退職して十年目。この間、主に大学教員と放課後居場所づくりのコーディネーターの二刀流で教育に関わりながら過ごしてきた。偶然にも、大学で教えた二人の学生が教壇に立つ学校で、今私も勤務している。授業づくりに励む姿を見守ることに、なんとも言えないうれしさを感じている。

さて、来年は。大好きな学校にもう少し身を置いていたい気もあるが、どうしたものか。昔、手習ったクラブや楽器に触れながら、次の一手を思案する日々である。

科学普及活動

川口班 久保田 真一

退職してはや五年を迎える。私は、ボランティアとして科学普及活動を行っている。科学もの作りや親子星空教室を開催している。毎年、たくさんの方から依頼があり大変ありがたい。化石探し・

現在の教育ニーズとその対応に向けて

蕨市教育委員会教育長 松本 隆男



「コンパクトシティ蕨」では、「生きる力を育み」とともに学び、未来を拓く「蕨の教育」の具現化に向けて、各校が工夫して特色ある学校づくりを進めています。

蕨市教育委員会では、『蕨愛、今よりも一歩前進』をスローガンに、現在の教育ニーズに 대응するために、様々な取組を実践しております。今回はその一端を紹介させていただきます。

一 不登校児童生徒への支援と未然防止

不登校児童生徒は、年々増加し、その傾向は蕨市も同じような状況となっており。そこで、令和4年度より市教委、管理職、教育相談主任、蕨市教育センター、スクールソーシャルワーカー、さわやか相談員等で構成した「蕨市不登校児童生徒対策協議会」を設立し、「蕨COOLOプラン」の取組により、学びにアクセスできない児童生徒の減少や不登校児童生徒の予防を目指しております。

二 学校ICT環境の整備と教職員支援体制の構築

万華鏡づくり・巨大シャボン玉実験等々…。また、自前の望遠鏡を持参し、月のクレーター・土星・星座の観察を行っている。参加した子どもたちはみんな笑顔で、楽しかったと応えてくれる。自分が健康である限り、この活動を続け科学の楽しさを伝えていきたい。

初任者指導で思うこと

藤・戸田班 小松 正明

自分が初任者の頃とは異なり、現在は情報機器の著しい発達に伴い、良し悪しにかかわらず瞬く間に情報が拡散していきます。そして、その情報を誰もが簡単に入手できる環境で生活しているのです。同様に、学校にも様々な情報が入り込みます。そのため、自分の仕事に自信が持てず、壁に直面している初任者が多いように見受けられます。この様な中、これまで以上に全職員が一丸となり、初任者を育てていくことが肝要だと感じています。

園長二年目、元気です！

川口班 須山 恵美子

幼稚園長として二年目を歩き出しました。園児の笑顔と成長ぶりに毎日パワーをもらっています。写真クラブに所属しながらもな

かなか活動に参加することができず残念です。幼稚園のホームページのブログを毎日更新しています。園での保育の様子や園児の遊びの様子が伝わるようにと工夫して撮影し、撮った写真の中から精選して掲載しています。少しは写真撮影の腕が上達しているでしょうか。是非、舟戸幼稚園のブログを訪問してみてください。

新たな世界の扉を開けて

朝霞班 津田 美奈

私とその扉を開けたのは三年前2020東京パラリンピック。連日放映されるパラアスリートの種目と活躍に釘づけになった。中でも銀メダル獲得の偉業を成し遂げた男子車椅子バスケットボール。その流れるようなスピード感や迫力に圧倒されバスケットが再燃。生で観戦したい！

それから今日に至るまで全国観戦の日々。日本代表は元より推しチームができ、会場で一喜一憂しながらの大声援！仲間の輪は次々に広がった。次の扉の可能性は…。

本の楽しみ方

川口班 若林 茂

私は時代小説をよく読みます。浪人ながら剣の達人、庶民から親

しまれ、幕府の重鎮からは頼りにされる。ただし幕府や大名の家臣にはならない。そんな自由で魅力的な主人公達に惹かれます。

史実との関連や江戸と東京の町の比較も興味を引きます。時々私の故郷の秩父が出てくることもあります。知らなかつた歴史が語られていて、ネットで検索し新たな発見をすることもあります。近所の社寺を散歩すると一瞬小説の雰囲気を感じたりします。

「生涯現役」

草加班 並木 正成

定年後「第二の人生」「余生」という言葉が頻繁に耳に入ってきた。その言葉に、違和感を感じていた。ある日、福井県の永平寺を訪問し、「道元禅師からのメッセージ」という冊子を購入したことを思い出した。「人生に定年はない。老後も余生もない。死を迎えるその一瞬までは人生の現役。自らの人生を悔いなく生きる人。」溜飲が下がった。二年前、市議会議員選挙に立候補し、何とか当選を果たした。草加市、子どもたちのため、日々努力していきたい。



蕨市立小中学校の全児童生徒

に、PC端末を一人一台配備するとともに、ICT支援員の配置や、ICT活用指導力向上ワークショップグループ協議会の設立、市内全教職員に様々な情報提供を行う教職員ポータルサイトの開設など、教職員のICT活用能力の育成に向けたきめ細かい支援を行っています。また、通信環境について、日経BP「公立学校情報化ランキング」の記事で、蕨市は小・中学校共に県内一位となりました。(2024年1月16日発行「日経パソコン 教育とICT NO. 27」より)

三 学校の国際化と日本語指導

外国籍の児童生徒が増加傾向にあり、日本語指導の必要性が高まっています。蕨市では、蕨市教育センターに日本語特別支援教育支援員を配置し、各校の日本語指導加配教員と連携し、サバイバル日本語の習得や学校生活への適応を目指し、日本語指導に当たっております。

この他にも、コミュニティスクールの全校実施、令和6年度「埼玉教育」第2号で取り上げられた「いじめ未然防止ワーキンググループ」等、さまざまな取組を実施しておりますが、今後も日々変容していく教育ニーズを把握するとともに、対応してまいります。

支部だより

◆第一回理事会開催さる

去る九月十日(火)第一回理事会が川口市立並木公民館に於いて開催された。神山支部長より、日頃の会員の皆様の協力での会の運営もスムーズに進んでおり、充実した活動ができていくことに感謝の言葉、健康に過ごすこと等の挨拶があった。また、働き方改革、教員の不足で苦しんでいる学校の現状について等にも触れ、退職校長会も現職を応援するお手伝いをし、少しでも役に立つ活動をしていきたいとお話があり協議に移った。

◆教育推進協議会提案者決まる

今年度も「現下教育の諸課題」をテーマに、次の方々から各会を代表して、貴重な提案がなされる。

①【持続可能な社会を創造する力を育む教育活動の推進】

志木市立志木第二小学校

佐々木 宰校長

②【「小中一貫教育推進による生きる力の育成」〜幼保小中の交流・連携と一貫教育による授業改善〜】

草加市立新田中学校

遠藤 淳一校長

③【みどりと文化のハーモニー〜地域学校協働活動の推進〜】

退職校長会川口班

田代 博人元校長
(渡邊 秀人)

班だより

◆藤・戸田班(和楽登会)

令和六年度は新会員五名の入会を得て八十六名(併会員三名含む)でスタート。

森山征夫会長のもと副会長には女性活躍社会を反映、二名体制に。総会は、神山支部長のご臨席を賜り開催しました。

◎各種事業等について

本年度の主な事業について

- ・地域教育の推進協力(蕨土曜塾の運営等)
- ・秋、春の散歩(秋：春日部市防災地下神殿・来春：都内の史跡)
- ・和楽登会ゴルフ(他班へも声掛け)
- ・郵便物等通信費削減策及び事務の効率化検討

今年度は郵便料金の値上げが課題となっており、その削減策と業務の効率化を検討しています。

数年間、他県自治体で教育長として活躍した会員が再入会し、ネット環境を活用した実績をもとに郵便料金削減策等を検討してもらっているところです。

——————*

ご冥福をお祈りします

山本 邦男様(朝霞) 7/13 八十歳
林 俊幸様(川口) 8/7 六十八歳
谷口 治郎様(川口) 8/12 七十四歳
松本 順吉様(草加) 9/10 九十四歳

(10月10日現在)

会員の中には、ネットは苦手という方もいらっしゃいます。そういう方には従来どおりの方法もありということ、無理のない方法で進めていきたいと考えています。

◎「みなさんお元気ですか!」会員の近況報告集を発行

新年懇親会の案内の際、出欠欄に現況等を書いてもらい、欠席でも思いをはせる機会としています。

(文責 前田一男)

◆草加班

本年度の総会は、高木宏幸会長の下、会員九十四名で順調にスタートしました。令和六年度新会員の自己紹介等も行い、新たな息吹を感じながら、時代の変化を見据えたスタートができました。

また、総会後には、草加市教育委員会教育長山本好一郎様に、「草加の教育の現状と課題」の演題にて講演いただきました。

更に、五年ぶりの懇親会を開催し、会員相互の親睦を深めました。

今後も草加市教育振興への寄与と共に、会員相互の親睦と健康維持増進を図って参ります。

◎草加市教育支援の継続

▼第四次教育振興基本計画の推進

会員の豊富な教育経験を活かし



た児童・生徒への学力向上支援の協力継続。

▼草加寺子屋事業(土曜学習・放課後学習)への学習支援継続

小学校二十一校、年間十二回

▼放課後児童クラブ事業等に協力

◎主な活動(感染状況で変更有)

①役員会の開催(四月五日、九月二十五日)

②クラブ活動

◇ゴルフ開催 大会等への参加

◇読書会 内村鑑三「代表的日本人」勉強会

③行政への要望書の提出

④忘年会(六年十二月七日)

⑤現職・退職校長研究協議会懇親会(七年二月)

(文責 若林茂次)

あとがき

北足立南部支部会報「かけはし」第六十七号をお届けします。

ご多用の中、玉稿を賜りました各位に衷心から御礼申し上げます。

コロナ禍で実施できなかった行事も少しずつ実施できるようになりました。早くコロナ禍前の活動に戻って欲しいと思います。

県退職校長会ではホームページの充実を図り県内各支部の情報、各班の情報を積極的に紹介しております。一度ホームページをご覧ください。

(加藤 正明)